

平成24年9月

林暁洋 学位論文審査要旨

主 査 池 口 正 英
副主査 林 一 彦
同 村 脇 義 和

主論文

Fhit, E-cadherin, p53, and activation-induced cytidine deaminase expression in endoscopically resected early stage esophageal squamous neoplasia

(内視鏡的に切除された早期食道扁平上皮性腫瘍でのFhit、E-cadherin、p53、AIDの蛋白発現)

(著者：林暁洋、八島一夫、武田洋平、佐々木修治、河口剛一郎、原田賢一、村脇義和、井藤久雄)

平成24年 Journal of Gastroenterology and Hepatology 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

食道扁平上皮癌は、飲酒・喫煙などが危険因子であり、発癌・発育進展の過程で複数の遺伝子異常が蓄積することが知られている。本研究は、癌関連蛋白の発現異常と食道扁平上皮性腫瘍の進展との関係を明らかにするため、内視鏡的に切除された標本を用いてFhit、E-cadherin、p53、AIDの蛋白発現を検討し、臨床病理学的背景と比較検討したものである。FhitおよびE-cadherinの蛋白発現減弱は、食道扁平上皮癌の発生、進展に関与し、この発現異常と飲酒、喫煙との関連も示唆された。ただp53、AID蛋白の異常発現は進行程度で差を認めず、両者が互いに関連を認めないことが示された。本研究は、癌関連蛋白異常特にFhitとE-cadherinの発現低下と早期の食道扁平上皮性腫瘍の進展の関係を明らかにしたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。